

# Daito to Day

祝日も無い水無月号



## Vol. 3



発行日	2018年6月4日 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
発行	大東文化大学学長室 po@ic.daito.ac.jp
編集	学長室 <a href="http://www.daito.ac.jp/president_blog/">http://www.daito.ac.jp/president_blog/</a>

教師と学生の共同体 (universitas magistrorum et scholarium) を起源に持つ大学にはさまざまな意志と目的を持った学生が集い、互いとの関係性において研鑽しあい、知識と経験が深められます。それらが大学という場に蓄積され学びの場として自己成長するためには、大学自らが社会に開いた循環の仕組みを持たねばなりません。

### 学生が牽引する大学を目指す

#### Daito Education PLUS

大東文化大学は自己成長する社会循環の仕組みとして、教室だけでなく学内の様々な課外活動をも学生の主体的な学びの場として提供する「Daito Education PLUS」Centerを2017年10月に立ち上げました。「Daito Education PLUS」は、新しい学びの場を学生自身が創り上げることを大学全体で積極的に支援し、大学を元気にする過程を通じて社会で活躍する大東人の育成を目指しています。

「Daito Education PLUS」の芽は着実に育ち、キャンパスのいたるところで観察できます。



大東文化大学 TOKYO 2020 キックオフイベント  
オリリンピアン・パラリンピアンを招いた『大東文化大学 TOKYO2020 キックオフイベント』（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の承認行事 2017年12月2日）

学生スタッフが初めて大学主催行事を運営した記念碑的の活動。この実績が2018年度入学式の企画・運営に学生が参画する道を開きました。

#### 大東文化大学アスリート宣言

スポーツは今日の大学を語る上で欠かせません。スポーツとは健康に基づいた知性と身体とが高いレベルで統合された現代的知性の在り方であり、大学スポーツはその理想近くに位置しています。本学では2017年6月に、スポーツの文化的価値を尊重し、スポーツを学生の教育と豊かな学生生活における重要なファクターと位置づけ「大東文化大学アスリート宣言」を定めました。「Daito Education PLUS」はスポーツ精神を基盤の一つとする大東文化大学が目指す大学教育の方向性を映し出しています。

#### 1 学生と学び共に歩む

学生による「Daito Education PLUS」の活動は教職員に勇気と活力を与えています。「Daito Education PLUS」は学生諸君が私たちと共に学ぶ仲間であることを再確認させる仕組みでもあります。



仲間と歩きながら笑顔が弾ける。一人で静かに歩く。自分の道を見つけて歩く。皆の顔に汗が輝く。



新入生歓迎の恒例行事「フレンドシップ・ウォーク」が東松山校舎総合グラウンドから埼玉県こども動物自然公園内も巡回する往復コースで行われ、1329名の学生・教職員が参加しました。ウォークでは公園内でクイズが出され、答えになっている動物を探す形で行われ、各自が自由なペースで歩きました。

#### 門脇学長が語る「恕」という字(人に対する思いやりの心)

2500年前の中国に孔子という人がいました。思想家であり政治家であり、教育者でもありました。この孔子の言行を記したものが『論語』という書物で、そこに次のような話があります。弟子の子貢が孔子先生に訊ねました。「生涯にわたって持ち続けるべき心構えを一言で表す言葉はありますか」と。孔子先生がおっしゃいました。「それは『恕』だ。『恕』というのは、自分が人からされたくないことは、人にするなということだよ」と。

この「恕」は、私が最も大切にしている言葉です。大東生の皆さんには、この「恕」の心を持って、生涯、人々のために働く人間になってくれることを切に願っています。



学生スタッフが主体となって企画・運営した入学式では3000人の新入生とその保護者を魅了し、教職員に大きな感動を与えました。下の写真は「恕(ジョ)」の字が入学生に掲げられた様子を写しています。



#### manaba 利用の教員向け説明会のお知らせ

学習管理システム manaba が6月11日から全授業科目で利用できるようになります。後期からの正式運用に先立ち、説明会では manaba を実際に体験していただけます。

説明会を 板橋校舎 6月18日(月)4時限/5時限 1号館303教室、東松山校舎 6月21日(木)4時限/5時限 7号館7244教室 で開催し、何がどう利用できるか紹介します。詳しくは『情報情報 Center News Vol.2 No.1』または学園総合情報センターまでお問い合わせください。

教員学生比の高い私立大学においては依然として教室や設備・機材などハード面では十分とは言えません。それでも、授業運用の改善の努力が重ねられてきました。それぞれの大学がこれらの仕組みをどう使いこなし、教育の質的向上を達成するかが問われる段階になっています\*。大東文化学園では2018年度より大東文化大学と第一高等学校の双方に manaba を導入しました。manaba は学校で行われる授業で生じるさまざまな局面を支援する学習管理システム（LMS）として日本では代表的なシステムです。現在大学生の1/5が利用しています。

\* LMS 導入については、アメリカではほぼ100%で組織的導入・利用の段階は既に終了し、学習分析および個人特化という次の段階に移行しています。日本でも急速に増加傾向にあり、2015年には国立で90%、公立で50%、私立で63%の導入となっています（AXIES「高等教育機関におけるICTの利活用に関する調査研究」平成28年）。同時に、LMSの授業での利用率の低さが指摘されており、その有効活用は本学の今後の課題でもあります。

## 学園の manaba 整備状況

1万人強の学園利用者を抱えたDB manabaの連続安定稼働を実現するために、実習室やDB Portalのように学内システムを経由せず、Microsoft Azureを使った認証システムを組み合わせたシステム設計とし、最高級の安全性と対障害性を有するLMSを目指しました。

第一高等学校ではすでに4月中旬から1年生を対象にDB manabaの利用を開始しています。平成32(2020)年度の大学入試出願時の調査書に代わるものとして文科省大学入試改革推進事業となったe-ポートフォリオに向けていち早く体制を整え、従来の成績評価だけでなく生徒にも取り組んだ学習経過の記録を促す探求学習など高大接続を視野に入れた先端的な生徒指導に取り組んでいます。

大学ではmanabaの正式運用を9月からと計画しておりますが、教学システムに登録された履修データをDB manabaへ引き渡してコースの自動登録をする作業を終え、6月11日から全学での利用環境が整う予定です。これ以降はいつでも授業でご利用いただけます。表ページに manaba 説明会の日程等について案内いたしました。是非、学生と一緒にDB manabaを体験してください。

## 教学システムとLMSの関係性

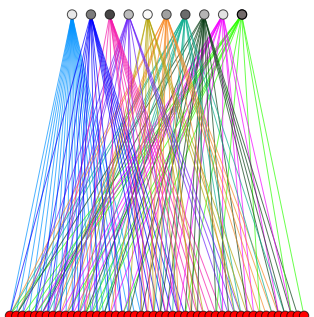
DB Portalは授業コース単位の情報デザインとはなっており、教学システムとして集約されたデータを取り出したり追加情報を集約するなど事務業務をコアとする周辺サービスとして位置づけられています。教学システムとDB manabaの仕切り分け作業については、関連部署間で検討段階にあります。

本学の教学システム Campusmate-Jは、学籍管理、Web履修、成績登録、教室管理などを処理しています。そのエンドユーザサービスDB Portalは、DB manabaの提供するサービスと機能上一部が重複しています



DB manabaは教学システムとは異なり、教員と受講学生で形成される学修活動を各授業クラス（コース）内で完結かつ連動した形で支援します（図参照）。教員と学生という（本来双方向の）垂直な関係に加え、注目すべきはDB manabaでは情報共有の仕組みや掲示板、さらにはリアルタイムコメントなど学生同士の水平的な関係軸を備えていることです。

10個のコースを履修した50人の履修総計が200となった二部グラフの例



教員数 << 学生数のため、各教員がクラスの学生へ注ぐ眼差しだけでは学生の学習行動の再構成は困難です。

manabaだけで教育の課題は解消されません。各教員とその授業での学生関係が改善されたとしても、学生一人ひとりの学習行動の全体を把握するためには、教員同士のつながりや大学の組織的な取り組みが欠かせません。

学術情報基盤の整備については、既にいくつかの諮問がなされています（たとえば「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について平成25年」）。学生の学修環境充実に関わる学術情報基盤整備の在り方として、「コンテンツ」「学習空間」「人的支援」の3要素の有機的な連携が重要だとし、代表的方向性として以下のように示されています。

- 1) 「学習空間」については、多様な学習活動に対応するとともに開放性、透明性を高くし「見る」「見られる」という空間の中で学生の互いの学習意欲を刺激する
- 2) 効果的なアクティブ・ラーニングを実現するため、図書館、情報系センター、教材開発センターなどの関連組織の連携、さらに教育を担当する教員が協力して推進する体制を構築する。
- 3) 必要な学術情報について、情報ネットワークやクラウド環境の構築等を通じ、可能な限りできる限り共有化し、効率的な利活用が促進される体制を整備する。
- 4) 取得した学生の様々な学習データについて、適切な利用者制限等を施した上で多方面から解析し、学生の学習到達度など学習効果の分析検証に活用できるシステムを構築し、個人情報除去した部分については共有して積極的な利活用を図る、など。

## manabaを使ったアクティブ・ラーニング

スマートフォンアプリ responを使うと、提示した9桁の番号を入力するだけで大規模教室でも簡単にDB manabaとして出欠を取ることができ、その様子を学生に見せることができます。さらに大変興味深い responの活用として、クリッカーおよびアンケート機能を利用したライブ感溢れる授業があります。人前で質問したり意見を言うことは学生にとって大きな障壁には違いありません。0～9の数字と自由記入コメント付きクリッカーや質問文を用意したアンケートをその場で発行し、回答数やコメントをリアルタイムで集計表示しながら、学生からの手応えやグループ討議の契機となる双方向授業を簡単に運用できます。是非、活用してみてください。